

○ 住民説明会における意見等（江川地区）

1. 日 時 令和元年6月29日（土）13時30分から15時30分まで
2. 場 所 岩根西公民館
3. 出席者 防衛省整備計画局、北関東防衛局ほか
木更津市企画
千葉県総合企画部
4. 参加者 31名
5. 防衛省から説明資料に沿って説明後、以下のとおり質疑応答。
※【○主な質問等】【●防衛省の説明】【※木更津市の説明】

1. 木更津駐屯地への暫定配備期間について

- 暫定配備期間はどれぐらいなのか。また、佐賀県は受入れを了承したが、有明海漁協はなぜ了承をしないのか。
- 陸自オスプレイについては、昨年8月、佐賀県知事から受入れ表明をいただき、現在、佐賀県と有明海漁協において、佐賀空港建設時に締結された公害防止協定で確認されている、『県は佐賀空港を自衛隊と共用するような考えをもっていない』旨の考え方の取扱いについて協議がなされているところである。当該協議の進捗に応じ、施設整備に係る測量や基本検討等を行うことができれば、おおむね工期が判明すると思われるが、現時点で暫定配備期間をお示しすることは困難である。
- 漁業者側の観点から言えば、海上を飛行することは特段問題ではないが、低空飛行には驚くと思う。有明海漁協との調整が進まないのには、何か理由があるのか。報道によると、反対している者も多いと聞いたことがある。
- 佐賀県知事の受入れ表明後、協議の時期がのり漁期と重なり、漁協関係者が繁忙期に入ってしまったことから、のり漁期後の本年5月末、佐賀県知事が有明海漁協に直接説明し、協議が開始されたところ。現時点では、有明海漁協は正式な意思表示をしていない。賛否があることは我々も聞いているが、丁寧に説明をして御理解を頂きたいと考えている。
- 佐賀空港への配備を決定したのはいつ頃か。
- 平成26年の7月に当時の小野寺大臣から佐賀県知事に要請した。
- 見通しが甘かったと言わざるを得ない。
- 御指摘は承る。一方、我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増していく中、島嶼防衛能力の強化のため、オスプレイの導入を決定したものであり、御理解いただきたい。

2. 木更津駐屯地を暫定配備先に選定する必要性について

- 騒音について、CH-47と同程度であるとのことだが、振動については一切触れられておらず、信憑性に疑問がある。その上で木更津駐屯地が暫定配備先として、本当に最適であるのか。木更津駐屯地から無給油で水陸機動団の所在地まで飛行することが可能であるとのことだが、積載量によっても航続距離は変化するものとする。また海側である西側場周経路を飛行するとあるが、風向きによっては難しいのではないかと。更に、第一空挺団がオスプレイに搭乗し、様々な訓練を行うことになると思われるが、尚更、そこまで航続距離があるのか、疑問に思う。
- なぜ、木更津駐屯地なのかについて、説明資料に記載のとおり、①オスプレイの運用に必要な滑走路長約1,500mを有していること、②オスプレイ17機を配置できる広さを有していること、③既存配備機の運用への影響を最小限にとどめることができること、④既存の施設が利用可能であり、できるだけ早期に運用基盤として活用できること、これら4項目を満たす自衛隊の駐屯地・基地の中で水陸機動団の所在地である佐世保までの距離も考慮の上、木更津駐屯地が最適であると判断をした。航続距離の点について、木更津駐屯地から仮に南西諸島へ飛行する場合は、相浦駐屯地において水陸機動団を搭乗させることから、基本的には木更津において人員物資を搭載する必要はない。また、水陸機動団を搭乗させる際に燃料も補充可能であり、航続距離については問題がない。他方、水陸機動団と一体となった運用が効率的であることから、佐賀空港を恒久配備先として考えており、この考えに一切の変更はない。
- 木更津駐屯地へ暫定配備をしたい考えに至ったのはいつか。
- 防衛省の考え方を地元自治体にお伝えすることを決定したのは、5月の第4週に入ってからである。それまでの間は、省内で様々な検討を行っていたところ。
- 木更津駐屯地に、すでに準備隊を新編していたとの噂を聞いたことがあるが。
- 防衛省としては、今年度末に臨時航空隊を木更津駐屯地に新編したいという考えであり、現在、準備隊なるものは木更津駐屯地には存在していない。
- 木更津駐屯地を選定した理由の一つとして、滑走路長1,500mとあるが、オスプレイは垂直離着陸が可能である機体であり、それがオスプレイの特徴であることから、滑走路は必要ないのではないかと。実際、普天間飛行場に配備されている米軍のオスプレイは、垂直離着陸を行っており、滑走路は使用していないのではないかと。
- オスプレイは、垂直離着陸ができることは事実であるが、ホバリングからの離着陸では燃料消費量は比較的大きなものとなる。オスプレイの性能を最

大限発揮するためには、滑走路を使用しての離着陸が必要である。

- 先ほどの説明であれば、相浦駐屯地で人員を乗せるので、木更津駐屯地から飛行する際に、搭載物はないとのことであった。搭載物がなければ燃料消費も減るので、やはり滑走路は不要なのではないか。
- 南西地域の島嶼防衛を想定した場合は、相浦駐屯地で人員や物資を搭載する運用となると考えられるが、災害派遣等では、木更津から物資を搭載して輸送することも考えられる。また、当初から、滑走路のない場所に配備した場合、災害時に対応できない可能性もあるので、オスプレイの性能を国防等に役立てるため、御理解いただきたい。
- 木更津駐屯地には大規模な施設整備は不要であるとのことだが、オスプレイ17機全てを格納庫に格納することは可能なのか。
- 17機全てを格納することを予定している。

3. オスプレイの安全性について

- オスプレイは優秀な機体だと思うが、絶対に事故が起きないとは限らない。米軍機が墜落した場合、日本の警察や消防は立ち入ることができないという話を聞くが、陸自機の場合は、事故の原因究明は誰が行うのか。
- 陸自オスプレイに限らず、陸自機が事故を起こした場合、当事者として陸自が警察の捜査や消防の活動に全面的に協力するし、また、陸自の中で事故調査委員会を立ち上げ、事故原因を防衛省・自衛隊としてしっかりと追究していく。
- 陸自オスプレイの操縦士はまだ、経験不足で事故を起こすのではないか。米軍の事故も人的ミスであったとのこと、非常に不安である。
- 現在、日本国内で運用するに先立ち、米国で操縦士や整備員を教育している。熟練者が操縦し、また経験を有する者を養成し、事故を発生させないように努力している。

4. 生活環境への影響について

【騒音・振動】

- 陸自オスプレイの訓練内容はCH-47と同様になるとのことだが、現在、木更津駐屯地の運用時間は何時から何時までか。現在、夜間でもかなりの回数ホバリング訓練を行っており、騒音に迷惑している。何度も駐屯地に騒音の問い合わせをしたが、改善されない。
- 木更津駐屯地の運用時間は、平日8時30分から17時を基本としているが、この他、操縦士の練度維持のため、夜間飛行訓練を行っている。また、例えば東北や中部地方で山林火災が多数発生しており、その災害派遣に対応

するための飛行である。夜間におけるホバリング訓練については、可能な限り民家から離れた場所で実施している等、近隣住民の皆様のご迷惑にならないよう工夫して運用しているので、御理解願いたい。御指摘については、省内で共有させていただく。

- 現在、木更津駐屯地の北東側に住んでいるが、ホバリング訓練の騒音がかなり酷い。夏に網戸で過ごすことが多いが、ホバリング訓練をされるとテレビの音も聞こえないし、エンジン燃料の臭いもする。現在でも悩まされているのにもかかわらず、これに17機が追加されたら大変である。
- 現時点においても、地域住民の皆様にご負担をお掛けしていることは重々承知している。仮に陸自オスプレイが暫定配備された後、騒音等の影響が確認された場合には、木更津市とも相談の上、適切に対応していく。

- ホバリングの騒音も酷いが、米海兵隊MV-22オスプレイの定期機体整備の際、地上滑走の音が相当酷かった。ホバリングの騒音測定のみならず、地上滑走時の騒音測定もしてはいかがか。
- 防衛局職員が現場にいて、定期機体整備の試験飛行の騒音を確認している。いずれにせよ、オスプレイが暫定配備となった後、影響が確認された場合には、木更津市とも相談の上、適切に対応していく。

- 近隣住民の懸念は、安全性、騒音対策及び振動対策である。暫定配備であれば、恒久配備ではないことから、今までと周辺対策に変わりはないのか。また、防音工事の助成対象区域の拡大は検討できるか。木更津駐屯地の外郭に防風林があり、防音に若干効果があると伺ったが、本当に効果があるのか。
- 周辺対策については、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律に基づいて対策を講ずることとしており、障害の実態を把握した上で対策を行うことになることから、防音工事の助成対象区域についても同様である。いずれにせよ、仮に陸自オスプレイが暫定配備された後、影響が確認された場合、木更津市とも相談し、適切に対応する。防風林について、松林であると思われるが、緩衝緑地帯のあり方については検討する。

- 防音工事を実施したが、それでも振動は酷い。海側である西側場周経路の飛行を徹底してほしい。
- 振動は低周波音による影響であると思われるが、低周波音については、環境省による環境基準が定められておらず、特に航空機から発生する低周波音による影響は、調査研究の過程にあり、個人差や建物の状態による差が大きく、未知の部分があると承知している。いずれにせよ、騒音等の負担については、可能な限り軽減できるよう、努力していく。

【訓練内容】

- 仮に木更津駐屯地に暫定配備となった場合、米国で実施している教育訓練はどうなるのか。
- 教育訓練を含め、その基盤は木更津駐屯地となる。

- オスプレイは基本的には固定翼モードで離着陸を行うという理解で良いか。
- 厳密に言えば、固定翼モードであるとプロペラが接地するため、プロペラを少し傾けた状態である転換モードによる離着陸を行うことを想定している。訓練の目的によっては、回転翼モードになることもあるが、基本的な飛行としては固定翼モードで行うことになる。

- オスプレイ17機全機が揃った際、1日15回程度の離着陸が増加することであるが、離着陸回数の計算方法は、15機のみが運用される、ということか。飛行訓練やタッチアンドゴー訓練がある日は当然に複数回飛行することから、回数は増加する、という認識でよいか。
- 17機が配備されたからといって、常時17機が飛行するわけではない。整備をしている機体、訓練のため演習場等へ飛来している機体もある。15回というのは、過去の自衛隊の運用実績を踏まえ、平均1日15回という数字を算出したもので、あくまで目安である。なお、計算方法は、離陸で1回、着陸で1回とカウントをしている。

- 仮に木更津駐屯地に暫定配備となった場合、実際に房総半島で訓練を実施することは想定されるのか。住民の安心、安全が確保できるのか、そこが肝心である。
- 房総半島で訓練を行うことは想定され、現在もCH-47が房総半島で訓練をしている。地元との安心、安全について、オスプレイを配備するに当たっては、地元との関係上、最重要であることは認識しているし、事故が起きないように自衛官は訓練を行っているところである。

5. その他

【防衛省に対して】

- 既に木更津駐屯地にオスプレイを暫定配備させることは決定事項であるのか。仮に木更津市が暫定配備を容認しなければ、防衛省はどのような対応をするのか。
- 木更津駐屯地への暫定配備については、木更津市の皆様へ御理解を頂きたい、ということである。その上で、現在、木更津駐屯地以外の場所を暫定配備の候補地とは考えてはいない状況であり、まずは、木更津市の皆様に丁寧に説明をさせていただきたい。

- 私は自衛隊OBのため、どちらかと言えば防衛に理解がある立場であるが、騒音等の苦情はどこに言えばよいのか。木更津市に言えば、自衛隊に言えと、自衛隊に言えば、上司に伝えと。結果的に何ら前に進まない。もう少し誠意をもって対応していただきたい。
- 御意見を踏まえ部隊運用を行っていきたいと考えており、御理解をいただきたい。

【定期機体整備】

- 今後配備される陸自オスプレイの定期機体整備の周期はどの程度を想定しているのか。まだ、不明であれば、米海兵隊オスプレイの例で構わない。
- 米海兵隊MV-22オスプレイはおおむね5年に1度、オーバーホールを伴う定期機体整備を実施している。なお、陸自オスプレイが配備された後、陸自オスプレイの定期機体整備も木更津駐屯地で行うことになるが、基本的な周期は米海兵隊MV-22オスプレイと変わらないものと承知している。

- 木更津駐屯地以外で、オスプレイの定期機体整備を行っている拠点はあるのか。
- 木更津駐屯地のみである。

- エンジンテストの騒音が一番の騒音であると思う。消音装置や防音壁等を設置すれば、騒音は軽減されるのではないか。
- 定期機体整備時、入念にホバリングテスト等を行うため、騒音の御負担があることは承知している。御意見は承る。

- 自衛隊ファンであり、個人的にはオスプレイ容認派であるが、熱意と誠意を持って説明していただきたい。

【相談窓口】

- 今後、オスプレイが暫定配備された場合、騒音や振動の苦情は、誰に連絡をすればよいのか。
- 木更津駐屯地でも当然承るが、北関東防衛局でも承ることは可能である。

【木更津市への質問・意見】

- 木更津市の認識であると、騒音問題は年間に数件程度しかないとのことだが、木更津市にもそういう騒音の情報をあげていただきたい。
- ※ 我々が基地の苦情等をあまり受けてないとの御指摘について、今後は、我々にもお声をあげていただきたい。環境部署とも連携をしながら皆様の声を聞いていきたい。

- 暫定配備の受入れに関し、市が最終的に何らかの判断をすると思うが、その結果については、住民に対して何らかの説明はあるのか。
- ※ 現在、基地周辺地区の住民の懸念等を伺っているところであり、今日も含めて、今後説明会で出た意見、質問について、防衛省に対してより詳細な説明を求めた方がよいと判断したものについては、今後、市が防衛省に求めていく。防衛省の対応を確認した上で、市議会や県とも相談し、市の意思表示はしていきたいと考えている。従って、今日出された、例えば、暫定配備期間や現状のホバリング時の騒音軽減についてどのような対応をするのか、更に、オスプレイの安全性については、市が引き継ぎ、より詳細な説明や対応を防衛省に求めていく。その結果は、地区の皆様に関覧文書等によって報告をさせていただく。詳細は区長様と相談する。

- 現状、県はこの件については、了承しているのか。市は県と相談して、と言っているが、どういう結果を出しているのか。暫定ありきで話があって、住民説明会、ということなのか。説明は理解したが、そのあたりについて伺いたい。
- ※ 県も意思表示はしていないと承知している。県との相談はこれから行うが、まずは住民の意見を伺った後に対応したい。